

番号	氏名	抱負
071	小野口 昌久	金沢大学の小野口と申します。昨今、核医学検査の投与量など、施設間差が指摘されています。その原因として「標準化が重要な課題で、卒後教育の徹底」が重要と分析しています。核医学技術分野でも画像標準化に関し同様な問題が指摘されています。今後、学会をベースとした卒後教育を通し、技師の育成と同時に技術の向上を目指していければと思っております。宜しくお願い申し上げます。
072	柿本 信二	
073	笠原 敏文	
074	風間 清子	平成25-26年度の代議員を経験させていただき背筋の伸びる思いであります。新潟でCT研究会立ち上げに携わり、立ち上げから10年経ち新潟県内外から多くの方が参加していただき、日々頑張っている方々とネットワークを結ぶことができました。このネットワークを活かし、前向きな人や頑張りたい人や頑張っている人を応援して、地方から放射線技術学発展のお手伝いがしたいと思ひ立候補いたします。よろしく願いいたします。
075	櫻山 和幸	
076	片渕 哲朗	本学会は放射線技師最大の学術団体であり、これまで多くの実績を残しています。これは諸先輩方のお陰ですが、私自身この学会で育てていただき、多くのことを学びました。これからは若い人材の成長を手助けするような学会として、進歩して行く必要があると思われまふ。そのためには、放射線技師全体の学術レベルの向上を目指す必要があります。これまでの私の知識と経験を生かし、学会の発展に寄与したいと考えています。
077	加藤 英樹	JSRTが目指している方針を理解・共有しながら共にその実現を目指したいと考えています。中でも学会のグローバル化について、5年後や10年後の姿を思い浮かべながら、その礎を築く活動に参加できればと思います。また、医学と理工学が連携して放射線医療が益々高度専門化する中で、地域の会員が学会を通じて成長できる機会を創りたい。そして国民が求める医療の提供に少しでも貢献できればと思っています。
078	加藤 英幸	いま学会は国際化を前面に掲げ、新たな改革と事業に取り組んでいます。いままで4期7年間理事として学会運営に携わってきた経験を基に、来年度からは一会員として今後の学会の更なる発展と、会員個々が魅力を感じる学会になるよう微力ではありますが協力していきたい所存です。
079	加藤 秀之	
080	加藤 守	開かれた、支えあう学術団体を目指します。一流の研究者が所属する日本放射線技術学会において、トップの研究者だけが隆々と活躍する場ではなく、新人においても十分にその恩恵を受けられるような学会にしたい。新人のみならず、研究に興味にある会員をサポートできるようなシステムを構築したい。日本放射線技術学会はそのようなシンクタンクになり得ると考える。